

戦闘における航空機
4機種の兵器の戦術
AIRCRAFT
WAREFARE
THE GENIUS OF THE AIRFIELD 1916



ランチェスター戦略の 知られていない事実

【マル秘メルマガ】より 8通目その2

b. ランチェスター・ウイングを発明

翼が揚力を保つには、翼の中央より2割程前の部分を、高く盛り上げなければなりません。

こうすると翼の上側を流れる空気が、下側を流れる空気よりも速度が早くなることから、結果として上側の気圧が下がります。

しかし、翼の上側の気圧が下がると翼の端のすぐ横側にある空気が、翼の端から翼の後ろ側に向かって横方向に流れ込んできます。

こうなると、翼の上部を流れる空気と、横方向から流れ込んできた空気がぶつかるので、渦ができます。

ランチェスター先生は、この渦が翼の揚力を低下させることに気がきました。

これを防ぐには翼の端から、横方向に流れ込んでくる空気が入ってこれないように「つい立て」を立てればいいのです。

実際にこうすると、翼揚力の減少が押さえられるので、燃料が「3%~5%」節約されることから長い距離を飛行する国際線の飛行機にはたいがい主翼の両端に小さなつい立てが立っています。

国内線でも全日空が使っているボーイング737の新型には、このウイングがつけられています。

これはランチェスター先生が100年程前に考えたもので、「ランチェスター・ウイング」と呼ばれています。

もちろん経営戦略を研究する人にこの理論はほとんど知られていませんが、大学で航空工学を専攻した人は、誰でもこれらのことを知っています。

ランチェスター先生は、このときにまとめた飛行理論の論文を、1910年と11年の2年間で3冊出版しています。

日本では東京大学を初めとして名古屋大学や九州大学など、戦争前に航空学科があった大学には、この本の在庫があるはずですが。

私もランチェスター先生の墓参りに行ったあと3冊とも手に入れることができました。

3冊の合計は1305頁と量がとても多い上に、専門的な記事が書かれています。

この本はランチェスター法則の原書とともに、私の宝物の1つになっています。

(続く)

Lanchester

ランチェスター経営(株)



〒810-0012 福岡市中央区白金1-1-8 チュリス薬院301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>